

現3年生における過去の試験の分布（本校の酒井指導教諭の分析）

		1年次				2年次				3年次		
集団名	得点	1期末	2中間	2期末	学年末	1期末	2中間	2期末	学年末	5月単元	6月単元	
A	201～250	29	14	10	12	19	17	17	23	69	31	最も人数が多い集団
B	151～200	51	37	36	33	48	45	38	45	37	45	
C	101～150	29	45	40	44	29	30	37	29	18	34	最も人数が少ない集団
D	51～100	22	29	37	31	27	30	28	28	13	21	
E	0～50	9	14	16	19	18	20	23	16	5	11	
受検人数		140	139	139	139	141	142	143	141	142	142	二番目に人数が少ない集団

・1～2年生の結果

- 1：最も人が多い、を多数とったのはBグループ。次いでCグループ。
- 2：Eグループは人数に大きな変動もなく（学年間で）一定数の層がいる。
- 3：最上位層のAグループの人数も大きな変動はない。
 - ・中～中の上の層（BとC）がで全体の半数以上を占めること。学年があがるごとに最大人数の層がC→Bになっていることから、「しっかり取り組みたい」という学習意識の高い生徒が多い学年といえる。

・3年生では

- 1：月一の試験形態になり、範囲が狭い→取り組みやすい、となって上位層が増えた。それは2番目に人数が少ない層がA→Dへ移ったことから明らか。
- 2：範囲が狭くなったことから「授業中に」取り組む対策等の効果がでている。特に家庭学習を行っていないと思われるEグループが2年次の半数になっていることからうかがえる。

・まとめ

- ・月一の試験形態は意欲のある層には特に効果的。
- ・範囲が狭く、授業中の対策の効果が、家庭学習をしていない層に効いている。